

東北支部

東北支部積雪観測講習会の開催報告

1. はじめに

毎冬の恒例である積雪観測講習会が、本学会東北支部および(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所の主催、日本雪工学会北東北支部ならびに北東北エリア雪崩事故防止研究会の共催で、岩手県八幡平市で開催された。受講者は、登山ガイドなどの10名であった。開催地の岩手県をはじめとして青森県、秋田県、山形県の東北各地からの参加であった。要綱は以下のとおりである。

日 時: 2012年1月28日(土)

会 場: 松尾八幡平物産館あすびーて(岩手県八幡平市)

主 催: (社)日本雪氷学会東北支部
(独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所

共 催: 日本雪工学会北東北支部
北東北エリア雪崩事故防止研究会

2. プログラム

8:30 受付開始

9:00 開会の挨拶

阿部 修((社)日本雪氷学会東北支部支部長)

9:05~10:00 基本学習

本谷 研(秋田大学教育文化学部)

10:00~12:00 野外実習(積雪断面観察・積雪データの測定)

根本征樹((独)防災科学技術研究所雪氷防災研究センター新庄支所)

佐藤研吾(同)

12:00~13:00 昼食

13:00~14:30 室内実習(積雪データの整理)

14:30 閉会の挨拶

熊谷浩二(日本雪工学会北東北支部支部長)



図1 本谷会員による基本学習



図2 野外実習の様子

3. 講習概要

まず基本学習では講師の本谷会員より、降雪のメカニズムや積雪の性質、観測の目的についての講義があった(図1)。また、雪崩の速度の違いを目で確認できる雨どいを用いた模擬実験も行われた。

野外実習は、施設近くの斜面において行われた。受講者を2つの班に分け、班毎に積雪断面観察の概要の説明および受講者自らによる雪温などの測定が行われた(図2, 3)。観測項目は、雪温、



図 3 受講生による雪質の観察



図 4 積雪データの整理

雪質、密度、積雪相当水量および硬度であった。観測地の断面では、深さ約 150 cm の積雪はこしまり雪が多くを占めたが、分類上では同じ積雪層でも密度や硬度の違いを自ら測定することによって実感できる機会であった。講師である根本会員と佐藤会員の熱心な指導と受講者の熱意で、予定していた時間を大きく上回るほどであった。

昼食後は測定したデータを計算・整理し、疑問点を講師又は受講者同士で質問しつつグラフを作成した(図 4)。自らの班のデータの整理後は、他の班との比較を行ったが、班によって大きな差がないことを確認して安堵する受講生の表情が印象的だった。

室内実習の終了後、各受講者から感想を述べてもらい、最後に阿部支部長より修了証の授与を行った(図 5)。

4. おわりに

各受講者からの感想を聞いていると、これまでに断面観測を実際に行ってきた方もおり、今回の



図 5 阿部支部長からの修了証の授与

講習会を通してより深い知識を得てより一層興味を持ってもらえたことは、うれしい限りである。

(秋田大学 本谷 研)

(宮城大学 原田 鉦一郎)

(2012 年 2 月 3 日受付)